

American Rock Lyrics Landscape

—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見えてくるアメリカの風景

文=ジョージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第34回

フリートウッド・マック 「ヒブナタイズド」

ボブ・ウエルチの個性が出た神秘的な作曲り



Fleetwood Mac
“Mystery To Me”
Reprise [UK] ●K44248 [1973]
⇒Reprise [US] CD25982

この頃のフリートウッド・マックは、リンジー・バキングハムとステイビー・ヴィー・ニックスが加入してスーパースター・グループになるその少し前のラインナップだ。ボブ・ウエルチは74年に脱退してしまうが、『ファンタスティック・マック』や『噂』で一大ブレイクを果たすことになるバンドの前段階において、先述したようにとても重要な役割を果たしたと言えるだろう。彼は、ミステイカルでジャジーなメロデリーの曲が得意だった。この「ヒブナタイズド」はシングル「フォー・ユア・ラヴ」のB面曲だったが、アメリカのFMラジオではA面よりもこちらの方がよくかかっていた。ちょっと異様で不思議な雰囲気が出た曲だ。

ボブはいくつかのインタヴューや彼のオンラインQ&Aで、この曲に関して語っていた。彼は三つの話からこの曲を作ったという。ひとつはミシシッピ州で起こった、エイリアンによる誘拐事件。もうひとつはノース・キャロライナ州で不思議な池が発見された話。そして70年代のアメリカで流行っていた、カルロス・カスターナダによるドン・ファン・マトゥスの著作シリーズを

らはアメリカ中心での活動に移行、カリフォルニアをベースに活動していくことになる。しかもこの曲の作者ボブ・ウエルチはLA生まれのアメリカ人。メンバーにはもう一人、ボストン生まれのアメリカ人ボブ・ウエストンもいた。今では、もう彼らのことをイギリスのバンドだと思っても少ないだろう。というわけで、この連載で取り上げてみた次第。

今回はフリートウッド・マックが73年にリリースしたアルバム『神秘の扉(Mystery To Me)』に収録されているボブ・ウエルチの曲だ。71年からメンバーになったヴォーカル&ギターのボブは、キーボードのクリステイン・マクビーと共に、バンドのディレクションをピーター・グリーン中心のブルース・バンドからソフトなポップ・バンドに変えていった。それと並行して彼

々な検査をされ、その後、川沿いに戻されたという話だ。

It's the same kind of story
That seems to come down from long ago
Two friends having coffee together
When something flies by their window
It might be out on that lawn
Which is wide, at least half of a playing field
Because there's no explaining what your imagination
Can make you see and feel

▲昔から伝わるような、お決まりのような話だ。友人同士がコーヒーを飲んでいて、窓の外で何かが飛んでいった。それは、あの広々とした芝生の上に着地したのかもしれない。少なくとも競技場の半分ぐらいの大きさだった。ボブがこの曲を書いたベニフォールズという豪邸には大きなテニスコートがあったから、‘playing field’とは、それを指しているのだろう。

げたミクスチャーを吸って幻覚を見たり、空を飛ぶことができた話にあった。

今回の「ヒブナタイズド」は、そのドン・ファンの話を3番目のヴァースの一部に使っている。不思議なことや説明できないことは色々あるが、それを謙虚に受け入れようという歌詞だ。この曲を書いたとき、フリートウッド・マックのメンバーは、イギリスのハンプシャーという州にあるベニフォールズと呼ばれる20部屋以上もあるような豪邸に住んでいた。以前はそこに修道院があったという、ちょっと恐い不思議な雰囲気の家だった。だからこそこの曲はミステイカルな雰囲気のメロディーになったのだろう。

では、曲に入ろう。ファースト・ヴァースは、ボブがこの曲を書いた73年にミシシッピ州にあるパスカグーラで起こったエイリアンによる誘拐事件の話から始まる。パスカグーラではこんな出来事があった。チャールズ・ヒクソンと友人のキャヴィン・パーカーの二人が川沿いで釣りをしていると、宇宙船が目の前に現われた。するとエイリアンが降りてきて、彼らを捕まえて宇宙船に乗せたという。船内では20分ほど様

題材にしているという。

70年代、アメリカの高校生や大学生の間で話題になっていた本はいくつもあるが、一番人気だったのは、たぶんJ・R・R・トールキンの『ロード・オブ・ザ・リングス(指輪物語)』だろう。高校生の頃、僕の周りにこのシリーズを読んでいる人はいなかったと思う。だからこそ、映画版もあれほどアメリカで流行ったのだろう。逆に、皆が読んでいたふりをしていただけだったのは、ハーマン・メルヴィルの『白鯨』だ。これは高校生の時に読まなければならぬ本だったが、長いし難しすぎるから、ほとんどの人は最後まで読む力がなかったと思う。

そして、ちょっとでも自分がカウンター・カルチャーに通じていると自負していたり、インテリだと思っていたり、ドラッグ・カルチャーに興味を持っていたような学生たちに人気があったのは、68年に1冊目が発売された作家カルロス・カスターナダの作品で、メキシコのヤキ・インディアンの呪術師ドン・ファン・マトゥスを描いたシリーズだ。このドン・ファンは、サボテンの種類であるシブレタケ属とペヨーテを混

「想像力があなたに見せたり感じさせたりする何かに対して、説明することなんてできないうんだ」。

(chorus)

Seems like a dream
(They) got me hypnotized

「まるで夢みたいだ。(彼ら)に催眠術をかけられてしまった」。

Now it's not a meaningless question
To ask if they've been and gone

「でも、彼らがやって来たかどうかを問うことは、無意味な質問ではない」。

ここからの歌詞は、ボブが仕事の知り合いから聞いた、ある不思議な池についての話になる。マサチューセッツ州ウインストン・セイラムの近くにある森で起こったミステリアスな話だ。ある日、男の子が友達3人といつも通っている森の中を自転車で走っていると、80〜100フィートほどの不思議な池を見つけた。いつもの場所なのに、その池はそれまで見たことがないもの

って作られるテクニクだ」と俺は思う。

「奥深い森の中であって、道もない」。
「thick」は、すくなく奥で入りにくいところを指す。

「そして人間の手がその地形を作ったのだとしたら、どこかに証拠があるはずだ」。
「man's hand」は人間の手ではなく、「人間が作る」こと。「that land」は土地ではなく、この場合はそこにある池のことを指している。

この後、コーラスが繰り返され、最後のヴァースでは、カルロス・カスタネダに影響された歌詞が出てくる。

They say there's a place down in
Mexico
Where a man can fly over mountains
and hills

And he don't need an airplane or
some kind of engine
And he never will
Now you know it's a meaningless
question

To ask if those stories are right
'Cause what matters most is the

feeling

You get when you're hypnotized

「メキシコのある場所には、山や丘の上を飛び越えられる男がいるとみんなが言っている。彼には、飛行機もエンジンもないなものも、永遠に必要な」。
これはカルロス・カスタネダの本に出てくるドン・ファン・マトゥスの話だ。

「こういった話が真実なのかと聞いたですことには意味がない」。
「stories are right」とはまさに文字通りの意味なんだが、俺はこのフレーズが好きだ。自分自身も超常現象については聞いたです必要がないと思っているし、信じている方だからね。

「最も重要なことは、催眠術をかけられたときに表われる気持ちなんだ」。

この後、コーラスがまた繰り返され、曲が終わる。

ボブ・ウェルチは昨年、65歳で亡くなってしまった。もっこのフリートウッド・マックのラインアップでの演奏を観ることができない



ジョージ・カックル / GEORGE COCKLE
ラジオ・パーソナリティ。1956年、鎌倉生まれ。18歳で新宿2丁目のロック・バー「開拓地」で、音楽の世界にのめり込む。ハワイアンなどのCDをプロデュースする傍ら、インターFMでは音楽番組「レイジーサンデー」のパーソナリティをつとめ、音楽通ぶりを披露。さらにサーフ・イベントなどのMCでも活躍。
<http://whatsupmusic.inc.com>

で、しかもその淵はガラスみたいに滑らかだった。宇宙から飛んできた大きなボールか何かが押し込まれたように。友達に話すと何人かが見に行ったが、三日後には消えてしまったそうだ。

I remember a talk about North
Carolina
And a strange, strange pond
You see the sides were like glass
In the thick of a forest without a road
And if any man's hand ever made that
land
Then I think it would've showed

「僕はノース・キャロライナに伝わる、不思議な池の噂を思い出す」。
この「talk」は話すことではなく、「噂」のこと。たとえ「I heard talk that you are getting married」は「あなたが結婚する」という噂を聞いたという意味だ。

「その池の淵はガラスのようだ」。
この「You see」は「あなたは見るではなくて、同意を求めようというニュアンスだ。このガラス状になった池の淵は、隕石の衝突によ

のが残念だ。

信じるか信じないかには関係なく、ミステリアスな現象は実際に回りで起きている。俺はそれらがあるがままに受け止めたし、それを歌詞の題材にしていたボブに感銘を受けた。

かつて初めてこの「ヒプナタイズド」を耳にしたとき、歌詞の中でメキシコには空を飛べる人がいると歌っているのを聴いて、これはカルロス・カスタネダのドン・ファン・マトゥスのことを歌っているんだとすぐに思った。でも、今回この曲を紹介するにあたっていろいろ調べてみると、エイリアンによる誘拐や不思議な池の話も歌詞に取り入れていることが分かり、本当に驚いたんだ。読者の皆さんも、改めてこの曲を聴いてみてほしい。ミステリアスなサウンドが、また違ったかたちで心に響いてくるはずだ。